

[皮膚科]

[研修の目標]

日常生活で経験する皮膚科疾患の検査法、治療法を理解する。

[研修指導医]

三澤 淳子(皮膚科部長)

日本皮膚科学会専門医

[研修コース]

研修1～2年目の研修は受け入れ可。後期研修医(3年目)専修医(4年目以降)については浜松医科大学皮膚科入局。(基本・相談に応じます。)

[研修指導体制]

外来、入院患者の診察、検査、治療について基礎的な研修を行う。

[研修内容及び到達目標]

(1)初期研修到達目標

- A) 発疹を観察し、的確な表貌と記載ができるようにする。
- B) 皮膚科検査法皮膚生検(真菌検査・パッチテストなど)を経験する。
- C) 基本的な軟膏療法・創処置(消毒・包交)ができるようにする。
皮膚病変(潰瘍・びらん・発疹)に対する処置療法を習得する。
- D) ステロイド剤の適応と副作用を理解する。
- E) 頻度の高い疾患の理解と対応方法を習得する。
- F) 外来で対応可能な皮膚外科症例を経験する。
- G) 薬疹の診断・対応を習得する。

(2)研修内容(形成外科内容含む)

- A) 湿疹・皮膚炎……急性湿疹、慢性湿疹、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎
- B) 蕁麻疹・痒疹・薬疹……固定薬疹、急性蕁麻疹、慢性痒疹など
- C) 紅斑・紫斑……多型彦出性紅斑、結節性紅斑、紅皮症、アレルギー性紫斑病
- D) 膠原病・糖尿病……全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、糖尿病壊疽
- E) 肉芽腫・代謝異常……アミロイドーシス、黄色腫症、サルコイドーシスなど
- F) 物理化学的皮膚障害……熱傷、凍瘡など
- G) 水疱症・炎症性角化症……尋常性乾癬、尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡
- H) 皮膚腫瘍……老人性疣贅、粉瘤、日光角化症、ボーエン病、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、バジレット病、色素性母斑など
- I) 感染症……単純湿疹、帯状疱疹、伝染性軟属腫、蜂窩織炎、真菌感染症、抗酸菌感染

症など

(研修すべき主な診断・検査法)

A) 真菌鏡検、真菌培養、細菌培養、皮膚生検、皮膚病理学、パッチテスト等

(研修すべき治療法)

A) 軟膏療法(ステロイド軟膏、非ステロイド軟膏、抗生剤軟膏、抗真菌剤)

B) 光線療法(NV-UVB 療法)

C) 内服療法(抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、抗生剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、ステロイドなど)